

監修

佐佐木信綱 新村 出 津田左右吉
柳田國男 山田孝雄 和辻哲郎

今昔物語

長野嘗一校註

朝日新聞社刊
日本古典全書

監修

佐佐木信綱 新村 出 津田左右吉
柳田國男 山田孝雄 和辻哲郎

今昔物語

二

長野嘗一校註

朝日新聞社刊
日本古典全書

日本古典全書

「今昔物語」二 © 長野嘗一校註

昭和二十八年八月三十日初版發行

昭和三十一年六月三十日第二版發行

印刷所 凸版印刷株式會社

發行所 朝日新聞社（東京都千代田

區有樂町・大阪市北區中之島・

小倉市砂津・名古屋市廣小路）

定價 三二〇圓

目次

解

説

醍醐源氏系圖……………

隆國年譜……………

凡本

例

文

卷十三 本朝付佛法

修行僧義睿大峯の持經仙にあふものがたり……………

第一

葛川に籠る僧比良山の持經仙にあふものがたり……………

第二

陽修苦行を修して仙人となるものがたり……………

第三

下野國の僧古仙洞に住むものがたり……………

攝津國菟原の僧慶日のものがたり……………

攝津國の多多院の持經者のものがたり……………

比叡山の西塔の僧道榮のものがたり……………

法性寺の尊勝院の僧道乘のものがたり……………

八

理滿持經者經驗を顯はすものがたり……………

春朝持經者經驗を顯はすものがたり……………

一觀持經者死骸の讀誦する音を聞くものがたり……………

第十一

長樂寺の僧山に於いて入定の尼を見るものがたり……………

第十二

出羽國の龍花寺の妙達和尚のものがたり	第十三	五	佛蓮聖人法華を誦して護法を順ふるものがたり	第廿三	七
加賀國の翁和尚法華を讀誦するものがたり	第十四	五	一宿聖人行空法華を誦するものがたり	第廿四	七
東大寺の僧仁鏡法華を讀誦するものがたり	第十五	五	周防國の基燈聖人法華を誦するものがたり	第廿五	七
比叡山の僧光日法華を讀誦するものがたり	第十六	六	筑前國の女法華を誦して盲を開くものがたり	第廿六	七
雲淨持經者法華を誦して蛇の難を免るもの	第十七	六	比叡山の僧玄常法華の四要品を誦するもの	第廿七	七
信濃國の盲僧法華を誦して兩眼を開くもの	第十八	六	蓮長持經者法華を誦して加護を得るもの	第廿八	八
平願持經者法華を誦して死を免るもの	第十九	六	比叡山の僧明秀の骸法華を誦するものがたり	第廿九	八
石山の好尊聖人法華を誦して難を免るもの	第二十	六	比叡山の僧廣清の髑髏法華を誦するもの	第三十	八
比叡山の僧長圓法華を誦して靈驗を施すもの	第廿一	七	備前國の人出家して法華を誦するものがたり	第卅一	八
筑前國の僧蓮照身を諸蟲に食はしむるもの	第廿二	七	比叡山の西塔の僧法壽法華を誦するもの	第卅二	八

龍法華讀誦を聞き持者の語により雨を降ら

して死するものがたり 第卅三……………九〇

天王寺の僧道公法華を誦して道祖を救ふも

のがたり 第卅四……………九三

僧源尊冥途に行き法華を誦して活きかへる

ものがたり 第卅五……………九六

女人法華を誦して淨土を見るものがたり

第卅六……………九八

無慚破戒の僧法華の壽量一品を誦するものが

たり 第卅七……………一〇〇

盜人法華の四要品を誦して難を免るるもの

がたり 第卅八……………一〇三

卷十四 本朝付佛法……………

一一三

無空律師を救ふため枇杷の大臣法華を寫す

ものがたり 第一……………一二二

信濃守蛇鼠のために法華を寫して苦を救ふ

ものがたり 第二……………一二三

紀伊國の道成寺の僧法華を寫して蛇を救ふ

ものがたり 第三……………一二六

出雲國の華嚴法華二人の持者のものがたり

第卅九……………一〇五

陸奥國の法華最勝二人の持者のものがたり

第四十……………一〇六

法華金剛般若の二人の持者のものがたり

第四十一……………一〇〇

六波羅の僧講仙法華を説くを聞きて益を得

るものがたり 第四十二……………一二三

女子死して蛇身を受け法華を説くを聞きて

得脱するものがたり 第四十三……………一二四

定法寺の別當法華を説くを聞き益を得るも

のがたり 第四十四……………一二八

女法華の力により蛇身を轉じて天に生まる

るものがたり 第四……………一二三

野干の死を救はむがために法華を寫す人の

ものがたり 第五……………一二五

越後國乙寺の僧猿のために法華を寫すもの

がたり 第六……………一二八

修行僧越中の立山に至り小女に會ふものがたり 第七	一四三	金峯山の僧轉乘法華を持ち前世を知るものがたり 第十七	一五五
越中國の書生の妻死にて立山地獄に墮つるものがたり 第八	一四五	僧明蓮法華を持ち前世を知るものがたり 第十八	一六七
美作國の鐵掘穴に入り法華の力によりて穴を出づるものがたり 第九	一五〇	備前國の盲人前世を知り法華を持つものがたり 第十九	一六九
陸奥國の壬生良門惡趣を棄てて善く法華を寫すものがたり 第十	一五三	僧安勝法華を持ち前生の報を知るものがたり 第二十	一七二
天王寺八講のために法隆寺に於いて太子の疏を寫すものがたり 第十一	一五四	比叡山横川の永慶聖人法華を誦して前世を知るものがたり 第二十一	一七三
醍醐の僧惠増法華を持ちて前生を知るものがたり 第十二	一五七	比叡山西塔の僧春命法華を誦して前世を知るものがたり 第二十二	一七四
入道覺念法華を持ち前生を知るものがたり 第十三	一五九	近江國の僧頼眞法華を誦して前生を知るものがたり 第二十三	一七五
僧行範法華を持ち前世の報を知るものがたり 第十四	一六〇	比叡山東塔の僧朝禪法華を誦して前世を知るものがたり 第二十四	一七六
越中國の僧海蓮法華を持ち前生を知るものがたり 第十五	一六三	山城國の神奈比寺の聖人法華を誦して前世を知るものがたり 第二十五	一七九
元興寺の僧蓮尊法華を持ち前世を知るものがたり 第十六	一六三	丹治比の經師不信にして法華を寫して死ぬるものがたり 第二十六	一八〇

阿波國の人法華を寫す人を謗りて現報を得

るものがたり 第廿七

一八

山城國高麗寺の榮常法華を謗り現報を得る

ものがたり 第廿八

一八

橘敏行願を發して冥途より返るものがたり

第廿九

一四

大伴忍勝願を發して冥途より返るものがたり

第三十

一九

利苅女心經を誦し冥途より返るものがたり

第三十一

一九

百濟の僧義覺心經を誦して靈驗を施すもの

がたり 第三十二

一九

僧長義金剛般若の驗によりて盲を開くもの

がたり 第三十三

一九

壹演僧正金剛般若を誦して靈驗を施すもの

がたり 第三十四

一九

極樂寺の僧仁王經を誦して靈驗を施すもの

がたり 第三十五

二〇

伴義通方廣經を誦せしめて聾を開くもの

たり 第三十六

二〇

方廣經を誦せしめて父の牛となるを知るもの

がたり 第三十七

二〇

方廣經を誦する僧海に入り死せずして返り

來るものがたり 第三十八

二〇

源信内供横川に於いて涅槃經を供養するもの

がたり 第三十九

二〇

弘法大師修圓僧都を挑むものがたり 第四

十

二一

弘法大師請雨經の法を修して雨を降らすもの

がたり 第四十一

二一

尊勝陀羅尼の驗力によりて鬼の難を遁るもの

がたり 第四十二

二二

千手陀羅尼の驗力によりて蛇の難を遁るもの

がたり 第四十三

二三

比叡山の僧播磨の明石に宿り貴僧にあふもの

がたり 第四十四

二三

調伏法の驗によりて利仁將軍死するもの

たり 第四十五

二三

卷十五 本朝付佛法

三三

- 元興寺の智光賴光往生のものがたり 第一…… 三二
 元興寺の隆海律師往生のものがたり 第二…… 三三
 東大寺の戒壇の和上明祐往生のものがたり 第三…… 三三
 藥師寺の濟源僧都往生のものがたり 第四…… 三七
 比叡山の定心院の僧成意往生のものがたり 第五…… 三九
 比叡山の頸の下にこぶある僧往生のものがたり 第六…… 四一
 梵釋寺の僧兼算往生のものがたり 第七…… 四二
 比叡山の横川の尋靜往生のものがたり 第八…… 四四
 比叡山の定心院の供僧春素往生のものがたり 第九…… 四六
 比叡山の僧明清往生のものがたり 第十…… 四七
 比叡山の西塔の僧仁慶往生のものがたり 第十一…… 四九
 比叡山の横川の僧境妙往生のものがたり 第十二…… 五一
 石山の僧眞賴往生のものがたり 第十三…… 五三
 醍醐の觀幸入寺往生のものがたり 第十四…… 五四
 比叡山の僧長増往生のものがたり 第十五…… 五五
 比叡山の千觀内供往生のものがたり 第十六…… 五七
 法廣寺の僧平珍往生のものがたり 第十七…… 五九
 如意寺の僧増祐往生のものがたり 第十八…… 六三
 陸奥國の小松寺の僧玄海往生のものがたり 第十九…… 六五
 信濃國の如法寺の僧藥蓮往生のものがたり 第二十…… 六六
 大日寺の僧廣道往生のものがたり 第二十一…… 六八
 雲林院の菩提講を始むる聖人往生のものがたり 第二十二…… 六九
 丹後國の迎講を始むる聖人往生のものがたり 第二十三…… 七三
 鎮西に千日講を行ふ聖人往生のものがたり

第廿四……………三二四

攝津國の樹上の人往生のものがたり 第廿

五……………三七七

播磨國賀古の驛の教信往生のものがたり

第廿六……………三七八

北山の餌取法師往生のものがたり 第廿七……………三六〇

鎮西の餌取法師往生のものがたり 第廿八……………三四四

加賀國の僧尋寂往生のものがたり 第廿九……………三七七

美濃國の僧藥延無動寺の僧にあひて往生す

るものがたり 第三十……………三六九

比叡山の入道眞覺往生のものがたり 第三

十一……………三九三

河内國の入道尋祐往生のものがたり 第三

十二……………三九三

源融病ひによりて出家往生のものがたり

第三十三……………三九五

高階良臣病ひによりて出家往生のものがた

り 第三十四……………三九六

高階成順入道往生のものがたり 第三十五……………三九七

小松天皇の御孫の尼往生のものがたり 第

三十六……………三〇〇

池上の寛忠僧都の妹の尼往生のものがたり

第三十七……………三〇一

伊勢國の飯高郡の尼往生のものがたり 第

三十八……………三〇三

源信僧都の母の尼往生のものがたり 第三

十九……………三〇四

睿桓聖人の母の尼釋妙往生のものがたり

第四十……………三〇九

鎮西筑前國の流浪の尼往生のものがたり

第四十一……………三二〇

左近の少將藤原義孝朝臣往生のものがたり

第四十二……………三二三

右近中將源雅通朝臣往生のものがたり 第

四十三……………三二七

伊豫國の越智益躬往生のものがたり 第四

十四……………三三〇

越中の前司藤原仲遠兜率に往生するものが

たり 第四十五……………三三二

長門國の阿武大夫兜率に往生するものがた

り 第四十六	三三
悪業を造る人最後に念佛を唱へて往生する ものがたり 第四十七	三四
近江守彦眞の妻往生のものがたり 第四十 八	三六
右大辨藤原佐世の妻往生のものがたり 第 四十九	三八
女藤原氏往生のものがたり 第五十	三九
伊勢國飯高郡の老嫗往生のものがたり 第 五十一	三〇
加賀國□郡の女蓮華をもつて佛に供養し て往生するものがたり 第五十二	三三
近江國坂田郡の女蓮華をもつて佛に供養し て往生するものがたり 第五十三	三四
仁和寺の觀峯威儀師の從童往生のものがた り 第五十四	三五

今昔物語二

長野 一

解 說（系圖と年譜）

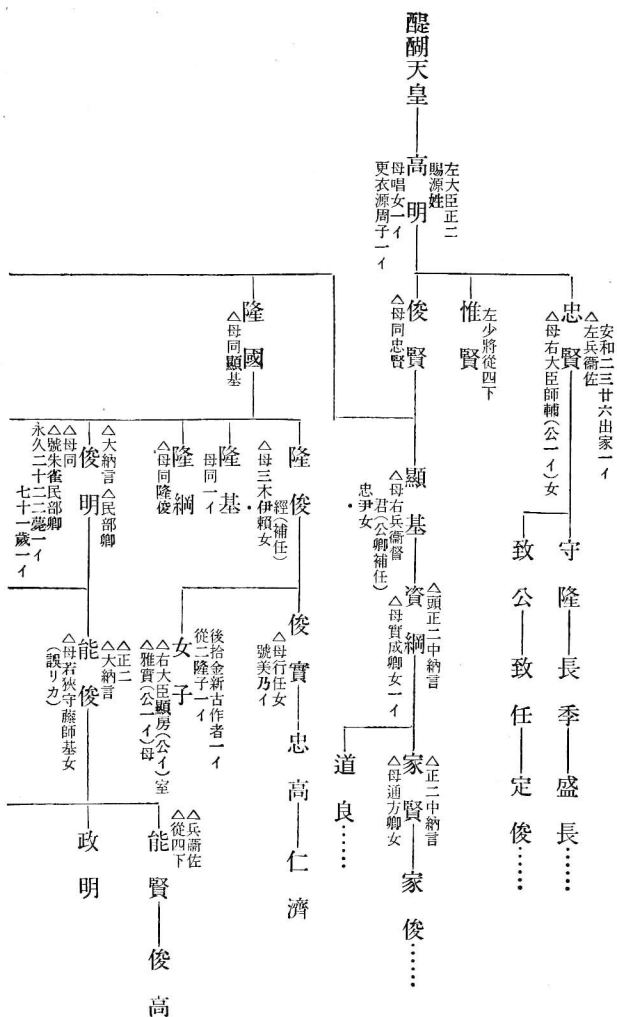
第一卷に附した「解説」の遺漏を補ふため、「醍醐源氏系圖」「隆國年譜」の二つを、この卷の冒頭に附加する。前者は「尊卑分脈」後者は「公卿補任」が中心資料であるが、管見の及ぶ限り、諸資料をあさつて不足を補ひ、誤りを訂した。

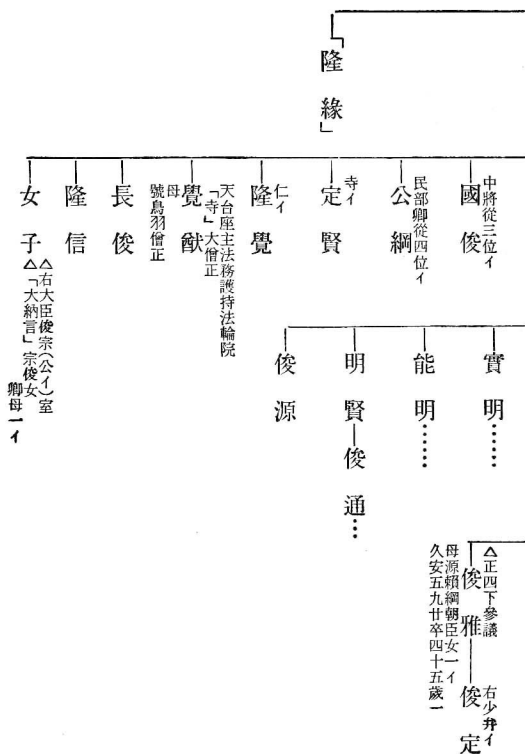
萬一、私の主張する如く隆國が今昔物語の原作者ではなかつたにせよ、少くとも宇治大納言物語の作者であり、且つ彼の作物が今昔物語の成立に重要な關係をもつと考へられる以上、彼の傳記をきはめる意義を過少に評價することはできない。

古代作家の傳記研究に伴ふ不便と困難とは、推論の早急をいましめる警鐘とはなり得ても、その難路を避けるための通辭とはなり得ない。幸ひ、隆國は王朝貴族の男性であつたから、中流階級の女性であつた源氏枕の作者とは異なり、若干の公的資料を、われわれは青史の上に散見する。ただ、それがあまりに「公的」に過ぎ、私的な彼の文學精神と交接する面の薄いことを、残念に思ふ。「日記」「隨筆」「感想」等の一片をも残さず、完全な「假構」のかげに雲隠れて、廿世紀の學問をあざ笑つてゐる彼の正體を、摸索する興味は盡きないけれども……

醍醐源氏系圖 (尊卑分脈)

人物の註記は「解説」にかかげた事項等は省略し、その他、必要のもののみ止めた。





隆國年譜

公卿補任は國史大系本。
略號も該本のまま。

西紀	天皇	年號	隆國 年齡	事	項	同上出所	その他の社會、 政治、文化事項
一〇〇四	一條	長保六 寬弘元	一	○生誕。（月日不明。父俊賢は四六歳、權中納言、治部卿、中宮權大夫。母は故右兵衛督藤原忠君女。兄顯基は五歳。時の内覽は左大臣道長で三九歳、反道長派の巨頭藤原實資は權大納言、右大將で四八歳）	公卿補任 （生誕は補任により逆算）	○前年（長保五）僧增賀寂し、僧寂照入宋。	
一〇〇五	同	寬弘二	二	○三月四日、後年の恩人頼通、非參議で公卿となる。年一五歳。	同右	○名陰陽師安倍晴明死去。	
一〇〇六	同	同三	三	○十月十六日、父俊賢、時光を超えて從二位に敘せらる。	同右	○僧源信、一乗要訣を著す。	
一〇〇八	同	同五	五	○三月四日、頼通權中納言、實資は正大納言となる。	同右	○紫式部日記起筆。	
一〇〇九	同	同六	六	○十二月十七日、俊賢敘正二位、（造一條院行事賞。超公任、隆家、行成等）	同右	○このころ、清少納言、紫式部等の才媛後宮に競ひ、王朝文化の華と謳はる。	
一〇一〇	同	同七	七		同右		
一〇一一	三一 條條	同八	八	○十月十六日、兄顯基敘從五位下。（一二歳）	同右	○源爲憲（三寶繪詞の著者）	